

## 研究開発課題中間評価結果

事業名（年度）	ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業 （令和4年度～令和8年度）
研究開発課題名	感染症研究に有用な小型実験動物の開発と供給に関するサポート機関
代表機関名（所属 役職）	公益財団法人 実中研（理事）
研究開発代表者名	伊藤 守

**【総合評価】** 優れている

### 【評価コメント】

サポート機関として、拠点へのニーズの把握、「感染症研究のための実験動物リソースバンクシステム」の作成・公開など支援を積極的に進めており、評価できる。

一方で、拠点に実験動物を提供した実績はあまり多くないことから、拠点のニーズや、Disease Xとして脅威となりうる病原体に対応するために必要な実験動物について、拠点の研究者とも意見交換を重ね、対応を考えていく必要がある。

緊急時においては特定のモデル動物に対する需要が短期間に集中する可能性があり、そのような事態にも対処しうる体制の構築についても十分議論を重ね、準備を進めておく必要がある。

カニクイザルの供給が不足している現状において、マーモセットの活用には大きな意味がある。マーモセットに関する高度化研究の進展を期待する。

独自に開発を進める遺伝子改変マウスや感染症のモデルマウスの感染実験を進めるためにも、感染実験を円滑に実施できる方策を検討してほしい。感染実験ができる施設の整備についても検討が望まれる。

以上